

Bee通信

SEPTEMBER



プレゼンテーション

2020年、東京でオリンピック・パラリンピックが開催されることが決定しましたね。賛否両論はあると思いますが、招致委員会の方々の躍り上がり讃え合うシーンを見ると素直にこちらも嬉しくなります。

「日本人はプレゼンテーションが下手」と聞いたことがあったので、東京招致のプレゼンテーションは、とても興味深いものでした。また、福島原発汚染水問題についても日本人が聞いているのでウソもつけませんし、世界を不安にもさせたくない。このような中でのプレゼンは、**メンバーがどのような役割を担い、どう順番で行うかが重要な鍵**となったと思います。

高円宮紀久子様より世界の人達へのご挨拶として、仏英語で東日本大震災への被災地支援の謝意が述べられましたが、そこには東京への招致を呼びかける内容はありませんでした。あくまでも日本の代表として御礼だけを伝えた、という役割でしたね。

被災地出身で、病気で足を失ったパラリンピック出場者である、佐藤真海選手の声かけにより始まったプレゼン。以下の6名が繋げていきました。



【プレゼンテーション メンバー紹介】

竹田恒和(招致委員会理事長)
水野正人(招致委員会副理事長兼専務理事)
猪瀬直樹(東京都知事)
滝川クリステル(招致アンバサダー)
太田雄貴(フェンシング過去二大会銀メダリスト)
安倍晋三(内閣総理大臣)

※全員のプレゼンの様子を、是非ご覧になってみてください。色々と感じられることがあると思います。

まだまだ私自身が未熟で、“何のために伝えたいのか？”“相手に何を受け止めてほしいか？”の目的が見えなくなり、結果、相手を不快にさせてしまうことがあります。今回はオリンピック・パラリンピックの招致という大舞台でのプレゼンでしたが、日々目の前にいる人とのコミュニケーションを高めるために“プレゼン”のノウハウは必要です。特に経営者層やリーダーは、取引先、顧客や部下に向けて話す機会が多いですから、“**目標を達成する**”ための戦略として**「誰がどのような場でどの方法、どのような話法で話すか」は重要**です。

7年後、日本の高齢化率(65歳以上の人の割合)は約30%になると言われ、団塊の世代も75歳に近づきます。開催のために関東地区の仕事が増え、親元と離れて暮らす子世代も登場してくるでしょう。オリンピック・パラリンピックの開催は楽しみですが、日本は課題が山積みの国です。

「えっ、課題？何それ??」と思うのであれば、是非、**㈱ワーク・ライフバランスの小室淑恵さんのプレゼンが役に立つ**と思います。

TED (Technology Entertainment Design) が行うTEDカンファレンス(プレゼン)は、この日本でも行われています→<http://www.tedxtokyo.com/>

約12分のプレゼンですが、日本の課題を知ることができます。課題を受け止め改善を進めて、2020年、家族、近しい人、多くの国の方と共にアスリートの活躍を楽しみましょう。



(吉岡 規子)

～お知らせ①～

今月より、 厚生年金保険料率が改定

前回のBee通信でもお知らせいたしましたが、平成25年9月分からの保険料率が、以下のように変更されます。昨年より0.354%の引上げとなります。

16.766%→【変更後】17.120%

～お知らせ②～

退職理由「労働条件が悪い」 全体の1割以上!

厚生労働省が発表した「平成24年雇用動向調査結果の概況」の中の「転職した職者が前職を辞めた理由」によると、**50歳未満の世代の10%以上**が挙げた理由が「労働条件が悪い」というものでした。特に**19歳未満の若い男性**においては、**33.5%**が退職の理由を「労働条件が悪い」ためとしており、退職の理由でトップとなっています。一度自社の「退職事由」の傾向を調べてみると、社内の新たな問題点が発見されるかもしれません。

～お知らせ③～

愛知県の最低賃金は 22円アップの780円に

本年度10月より適用される、「平成25年度地域別最低賃金額」ですが、愛知県地方最低賃金審議会の答申によれば、**時給780円(前年比22円の引上げ)**となる見込みが発表されました。今後、意義申出に関する手続きを経て、正式に決定がなされる予定です。正式な決定の際にはアナウンスいたしますが、自社の従業員の賃金額を今一度見直してみましよう。

～お知らせ④～

「継続雇用で元上司が部下」 抵抗がある人は57.6%

高齢者雇用安定法の改正の流れを受け、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構より「定年後継続雇用者の戦力化に向けて一評価行動の実態」が公表されました。

この調査結果によると、元上司が60歳以降に部下になることについて、管理職の**57.6%**が抵抗があると回答しました。継続雇用者への印象として、経験を活かしたアドバイスが買える反面、柔軟性に欠ける事が多いという回答も寄せられています。

今後、継続雇用者は増加を続け、元上司が部下になるケースも増加するでしょう。今のうちから様々な対策が求められています。



皆様の秋が実り多きもの
となりますように

Bee パートナース 社労士事務所

本紙作成編集 : 加藤 知美
発行責任者 : 吉岡 規子

〒460-0026
名古屋市中区伊勢山2-11-15
A.Sビル金山 6階

TEL : 052-265-8612
FAX : 052-265-8610
Email : office@bee-partners.com

ホームページはコチラ
<http://bee-partners.jp/>

お名刺等をいただいた皆様にお送りさせていただいておりますが、不要な場合はご連絡いただくと助かります。



「あいちワーク・ライフ・バランス推進運動」 賛同事業所になってくれる企業、大募集!

このたび「あいちワーク・ライフ・バランス推進協議会」により、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組実施を呼びかけるイベント「あいちワーク・ライフ・バランス推進運動」を実施することになりました。
この運動に賛同いただける企業を募集開始いたします。賛同いただける場合は、専用ホームページにて事業所名等が公開されます(公表を承諾した事業所のみ)

「あいちワーク・ライフ・バランス推進協議会」とは?

日本労働組合総連合会愛知県連合会、愛知県商工会議所連合会、愛知県経営者協会、愛知県中小企業団体中央会、愛知県商工会連合会、愛知労働局、名古屋市、公益財団法人愛知県労働協会、有識者、愛知県(事務局)で構成された団体です

具体的な取組内容は、

- ①11/20「愛知県内一斉ノー残業デー」への参加
- ②11月の「定時退社」推進
- ③「有給休暇取得プラス1」の実施(9月~11月に、前年同期間よりも1日多く有給休暇を取得すること)
- ④年間を通じた、効率的な働き方の取組を実施
(業務の繁閑に応じた計画的な勤務体制・業務の多様化に対応した勤務形態など)
- ⑤育児・介護支援の取組
- ⑥メンタルヘルス対策の取組

となっております。

愛知県内の企業、団体、事業所なら、どなたでも賛同OKです。本社所在地が県外の企業の場合でも、県内に事業所(支店、営業所、工場等)があれば事業所名で可能となっております。
賛同申込期間は、**平成25年8月26日(月)~11月30日(土)**です。

申し込みは、以下の方法で可能です。

- ①専用ホームページ : <http://www.aichi-wlbaction.com>
- ②申込書FAX(052-954-6926) : ダウンロードしてご記入ください!

(<http://www.pref.aichi.jp/cmsfiles/contents/0000063/63886/chirasimousikomi.pdf>)



経済産業省の「METI Journal」 広報誌

「METI Journal」とは、経済産業省が奇数月に発行している無料の広報誌のことで、

内容は、ものづくり、新商品など、今人気のあるキーワードが満載です。経済産業省の施策も紹介しているので、「今、この国がやろうとしていること・目指していること」が分かるようになっています。

“ビジュアル”と“分かりやすさ”に重点をおいて作られているため、非常に読みやすい広報誌だと思います。

閲覧料は無料で、アプリを使ってスマートフォンやタブレットでいつでもどこでも読む事ができます。

便利なポイントとして、雑誌のページ内に記載されている単語をタップすると、その単語にまつわる

サイトに自動的にジャンプできるようになっているんです。検索の手間が省けますね。

過去のバックナンバーも充実しており、電子雑誌のため、かさばらないのが便利です。

この機にぜひチェックしてみてくださいね!

ホームページはこちら→ <http://www.meti.go.jp/publication/data/d110001j.html>



QRコードも
あります!



打倒・ブラック企業! 「ダンダリン」労働基準監督官

今月で終了となる「半沢直樹」に夢中な方もいらっしゃると思いますが、来月10月より、日本テレビ系で放送されるドラマ「ダンダリン」って、ご存知ですか?

主演は竹内結子さん。「カバチタレ!」原作者が送る「労働基準監督署」を舞台とした物語です。

労働者の保護を責務とする「労働基準監督官」。その中でも、特に熱血な若手監督官、段田凜が、従業員を使い捨てにする企業を相手に立ち向かう...という内容です。

「サービス残業」「名ばかり管理職」「パワハラ経営者」...若者の就職難を背景に、長時間労働や過剰なノルマなど、法律を度外視した働き方を強いる企業が社会問題化しています。「ブラック企業」という名称も、毎日聞かない日はないくらい注目を集めています。

事態を憂慮した厚生労働省でも、対策が取られることになりました。9月を「ブラック企業対策の集中月間」と定め、約4千事業所への立入調査が決定しました。違法な残業や賃金不払いなどが疑われるケースに加え、「離職率」が極端に高い企業もターゲットになるそうです。調査により違反が見つかった場合は、ハローワークでの職業紹介が受理されない他、悪質な場合は**送検、社名の公表**もあります。

ドラマ「ダンダリン」の舞台は広島で、原作では中小企業が数多く点在する地方都市の現状が描かれています。今、注目のテーマを扱った秋ドラマを前に、一度読んでみてはいかがでしょうか?



編集 後記

子供の通う保育園の夏祭りが終了しました。夏祭りの出し物は、保護者が協力して学年ごとに出店するのですが、多忙を理由として準備を欠席する方が数名おり、役員である私も苦慮しました。そんな中、役員会の会長と食事をする機会があり「会長職は忙しいけれど、とても楽しい」という話を聞きました。保育園に子供を預ける保護者は、主に仕事との両立を抱え、基本的に忙しい方が多いです。会長は20歳で出産し、その後シングルマザーとなりました。役員の仕事の間は子供を保育園に預けることが許されないため、会長はいつも子連れで役員の仕事をしています。「楽しんでやった方が得だよ」と笑う彼女から、「忙しいからできない」という言い訳は、言い訳にはならないんだ、と強く感じました。(加藤 知美)

